

■ チーム医療の推進と看護師等の役割拡大 ■  
■ 「特定看護師養成調査試行事業」はじまる ■

## がんばれ！ 特定看護師の卵たち

近森会グループ統括看護部長 梶原 和歌



実習の打ち合わせをしている高知女子大学看護学部  
畦地博子教授と第二分院明神院長、松永看護部長

近森病院第二分院と近森リハビリテーション病院では高知女子大学大学院の「精神看護学領域」と「老人看護学領域」で特定看護師（仮称）養成モデル事業のため4名の院生を2月から実習生として受けています。

特定看護師という新しい看護師像は厚労省が取り組んでいるチーム医療推進会議の中で検討されているものです。その趣旨は医療現場の疲弊を防ぎ、患者・家族の求める新しい医療の在り方として、多種多様な職種がその専門性を発揮し、業務範囲や役割の拡大を活かしてチームとしての方針の下に包括的指示を活用して安心、安全、質の高い医療を連携して取り組みチーム医療を成功させようというものです。

近森会はまさに数年前から急性期医療、回復期リハ、精神の各領域で自発的、組織的にガイドラインやクリニカルパスを充実させ、治療の標準化と各職種の役割拡大を保障してきました。柔軟な実践治療チームを創った推進者は理事長で、責任は自分がとるのでどんどん自由にやってくださいという全職種に対する信頼のメッセージと、研究、研修、進学への惜しみない支援があつての結果です。

認定看護師、専門看護師、特定看護師などの高度実践看護師の他に医師の指示を受けずに診療行為をおこなう「ナースプラクティショナ」や外科医の業務「フィジシャン・アシスタント」

などさまざまな用語が看護周辺に出てきています。大事なことは患者にとってメリットがあり、臨床現場を支えてきた者が焦りや無力感に陥らないように人間らしい私生活と仕事へのやりがい感を味わえる環境づくりです。

法整備や第三者機関による認定制度

が並行して考えられることでしょうが、今回の試行事業に指定された16大学院32課程と日本看護協会看護研修学校の3課程に学ぶ特定看護師の卵のみなさん、パイオニアの自覚を持ち人々の健康と生活をしっかり見据えてがんばってください。

### 荒ぶる神



近森 正幸

『出雲国風土記』に「いちど入ると容姿が端麗になり、再び入れば万病が治る」と記された伝説の古湯、玉造温泉でのんびりしようと昨年の10月下旬、出雲まで足を伸ばした。出雲大社に寄る目的もあったが、実はここに日本一のパワースポットとして注目を集めている須佐神社がある。

ここは須佐の男命の御魂が祀られていて、本殿の裏には樹齢1,200年を超えるといわれる苔むした大杉が聳え

松江城は現存城のひとつで、お堀は埋め立てられず、こつとして屋形船で一周することができます。

立っている。須佐神社の拜殿の前に立ったとたん、私は身体中の毛があわだつように総毛立った。大杉の靈気が本殿と拜殿を通して増幅され、なにかいいような強いエネルギーとして私を包み込んだ。

高天原での悪行を咎められ、出雲へ追放された「荒ぶる神」須佐之男命ゆえだろうか。何回か訪ねたことがある伊勢神宮外宮や内宮で感じる身が洗われるような神々しい靈気とはまったく違う感覚だった。

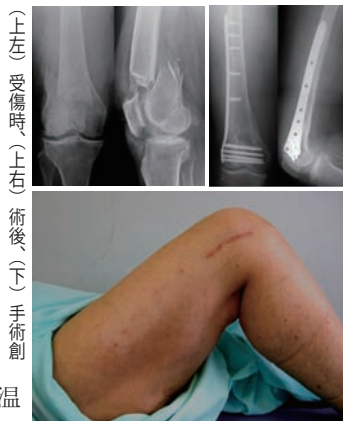
参拝客で溢れている伊勢神宮に比べ、須佐神社は出雲大社からちょうど真南におよそ20キロ、バスの終点から一時間ほど歩かないといけないほどの山深い里にある。そのためか観光客も少なく、地域の人たちに守られた古社の雰囲気がいまでも残っている。

20年ごとに遷宮を繰り返す常若の伊勢神宮の天照大神より、私はどうも、高天原を追われた「荒ぶる神」との相性がいいようである。

理事長・ちかもり まさゆき

# ミポ (MIPO) ってなあに？

近森病院整形外科部長 道中 泰典



(上左) 受傷時 (上右) 術後 (下) 手術創

近年整形外科に限らず外科系の手術において最小侵襲手術といった概念が話題になっています。

MIPOとは Minimally Invasive Plate Osteosynthesis、つまりプレートを用いた侵襲の少ない骨折の手術(骨接合術)のことです。

具体的には小さな皮膚切開からプレートを滑り込ませて、骨折部を展開することなく周辺軟部組織への侵襲を最

小限にして骨折部周囲の血流を温存できるために、早期の骨癒合が期待できるといった利点があります。加えて手術創が小さいため整容的にも優れており、術後の痛みも従来の方法と比べて格段に少なく、患者さんにとっては非常にメリットの多い手術手技であると思われます。

手関節や大腿骨近位に代表される高齢者骨折は近年著しく増加傾向にあ

り、高齢者であるが故にできる限り早い日常生活への復帰が必要とされます。

そういったなかでミポ法をはじめとした最新の手術手技を取り入れながら最高の医療が提供できるように日々努力していきたいと思

## 私の趣味 プロ野球キャンプ

近森病院言語療法科 言語聴覚士 大北 裕太



2月といえばプロ野球の春季キャンプ！今年は「佑ちゃんフィーバー」で、沖縄の日ハムが話題ですが、高知県も恒例のキャンプ地の一つです。阪神タイガースは有名ですが、他にも、オリックスや西武ライオンズも高知県にきています。

私は、去年はオリックス、今年は西武ライオンズのキャンプに行きました。キャンプといえば個人的には、選手を近い距離でみたり、バッティング、投球練習などをゆっくり観戦できるところに良さがあります。が……それは、あくまで野球好きな人にとっての話でしょう。興味がない人は、「オリックス、西武って誰がいるの？」という話ですよ。なかなか興味も湧いてこないでしょう。

そういう方には、西武ライオンズのキャンプがおすすめです。西武ライオンズといえば、近年は「イケメン軍団」と言われている球団です。また、高知市でキャンプを行っているのは、B班といって若手が中心、未来のスター候補たちです。

名前が分からなくても、実際に選手が懸命に打ち込む姿をみると、野球ファンになってしまうのではないのでしょうか。ぜひ来年は足を運んでみてください。

# フィジカルアセスメント 研修報告

近森病院教育専従シニア看護師長 川村 久美子



2月12日に名古屋大学医学部基礎看護学講座 山内豊明教授をお迎えして、「苦手なフィジカルアセスメントがきっとスキになる」と題して研修会を開催し、63名が参加した。

フィジカルアセスメントとは「身体

的な情報を意図的に収集して、判断する」ということであり、どのような情報からどう判断したのかを他者に分かるように伝えられないと意味がない。そのためには共通用語が必要であるということ学んだ。

参加者からは、呼吸に関して湿性ラ音やエア入り良好と書いていた自分の記録が恥ずかしくなった、苦手意識はなくなった、すごく楽しい研修でした等の感想が多く聞かれた。

今後もこの学びを看護の実践でいかし、看護の質向上につなげていきたい。

## 3月の歳時記 桃

訪問リハビリテーションちかもり 作業療法士 濱脇 祐香

桃の花言葉は「あなたに首ったけ、チャーミング」であり、3月3日の「桃の節句」に桃をひな人形の隣に添えますが、これは温室で育てた桃で屋外の桃の開花はもう少し後になってから。また、早咲きと遅咲きがあるそうです。

桃の「実」は水分や糖分、カリウムを多く含んでおり、「種子」は漢方で婦人病、「つぼみ」は利尿薬、便秘薬に使われるそうです。



絵・総務課広報担当 公文幸子



## いちばん欲しい一言

近森病院第二分院看護部長 松永 智香



2年前、近森会のソフトボール大会で、私はレフトを守っていた。私でもとれるかもしれないようなフライが飛んできて、夢中でボールを追った。その時、ショートとぶつかり、私は転倒してしまいましたが、ショートが無事にボールをキャッチしてくれて、かろうじてセーフ。

みんなは、「大丈夫？」と私の安否を気遣って下さり、一旦ベンチに下がることになった。すると、ベンチに座っていた明神院長が、「自分で捕りたかったなあ、ボール」と一言。「捕りたかったです」と答えて、スーッとした。

### 「乞！熱烈応援」

### 科長補佐就任の抱負



近森リハビリテーション病院  
理学療法科科長補佐 川渕正敬

私の性格は「すぐカッとなる短気」、「思ったことや言いたいことは言わずにはいられない」ところが特徴です。今までは部長科長に守られ、こんな自分でもなんとかなってきました。科長補佐の役職を頂いたからには、今までのような“勢い”だけではなく、「物事についてしっかり考え、責任もって行動する」ことをまずは心掛けようと思います（もちろん“勢い”は今後も継続していくつもりです）。

今後若いPTの育成、サービスの質の向上、経営面を考えながら、PT科を盛り上げていきたいと考えています。まだ至らない自分ではございますが、「自分の言葉に責任を持つ」「後輩へのハウレンソウ」を大切にして、がんばっていきたくと思います。よろしくお願ひします。

その件以来、私は「いちばん欲しい一言」にこだわるようになった。看護部長という役職にあるので、私のところに相談に来られるのは、患者さんやご家族、スタッフと師長たちであるが、「この方は、私にいちばん何を求めているのだろう？何を言って欲しいのだろう？」と考えながら、話を聴く癖がついた。

私の経験では、自分が「いちばん欲しい一言」は、人に言われてから気づ

くように思う。また、「いちばん欲しい一言」と、タイミングよく出会える機会は、人生のなかでそんなに多くはないと思う。

業務上、意思決定に悩んだときや困難な問題にぶつかったとき、フラッシュと臨床現場に赴き、師長やリーダーたちと会話ををする。そこで「いちばん欲しい一言」に気づくことがある。彼らは、私の目や表情、言葉、声、態度、文脈などを実によく観察している。そのたびに、精神科看護の経験ってすばらしいなと感心させられる。

今日も、現場では信頼するスタッフたちが、患者さんの想いに寄り添いながら、厳しくも優しい看護サービスを提供している。

\*もちろん、ソフトボール大会は、優勝して焼き肉でした！！

## 院外エッセイ

### 「つながり」が欲しい！

高知市町内会連合会会長 鎌田 良耀

よして

1940年1月高知市生まれ。1958年～2000年まで高知市役所勤務。その後、都市整備公社などを経て、2010年6月12日開催の2010年度高知市町内会連合会定時総会で会長に就任。（※高知市町内会連合会の設立は1988年11月）



会長に就任して早9カ月が過ぎてしまいました。

町内会とは、そもそもどんな性質を持った団体であるか理解していただきたいと思います。町内会は他の団体とは異なり、特定の活動をしたという人たちが集まって出来た団体ではなくて、限られた地域に住まう人が「自動的に対象となる」ことを原則とすることで成り立っている団体です。

最近では、町内会では多くの課題を抱えております。その一つが組織率の低下で、その背景には、近年多くなったマンションの建設や大多数の住民の関心の薄さなどが考えられます。もう一つはこれまで町内会を支えてきた地域住民の高齢化の問題、それに伴いもう自分がやめると後継者がいないという深刻な課題を提起しております。

そのことは、単なる組織率の低下ということではなく、町内会の活動を支えている役員層（世話役）の確保が難しいということでもあり、そ

の存続さえ難しいのではというケースも増えてきております。

そして、地域の身近ないろいろな情報は、プライバシー保護の問題などで入手が難しい状況があるにも拘わらず、生活とは縁遠い海外や全国の話や情報はマスメディアを通してすぐ手に入る状況でもあるのです。

町内会の課題といえば、自分達はずぐにマイナス面ばかりを考えてしまいますが、そればかりではありません。地域で行われている各種の催しや行事を通じて交流を深め「つながり」や「共生」を図っていくことも課題解決の一つになるものではないでしょうか。

このたび高知市においても市民協働部を発足して、より市民団体との協働をめざしており、その中で町内会連合会の果たす役割も小さくないものと考えております。行政とは適度な距離を置きながら地域社会の活性化に、今後とも努めて参りたいと思っております。

# 「知っておこう、ハイリスク薬のポイント！ —インシデント・アクシデント報告から—」

医療安全委員会委員長  
近森病院神経内科主任部長 山崎 正博



筒井由佳薬剤部長



公文薫放射線科看護師主任



高橋潔脳神経外科部長



けない行為という、メリハリをつけた対策の重要性を提案した。

公文主任は病棟での事例から、確認作業の重要性とミスを予防する視覚

に訴える具体的な対策を紹介した。

高橋脳外科部長は抗血栓薬による脳

出血の事例を通して医師、看護師、薬剤師がそれぞれの立場で何が重要かを説明した。活発な討論があったが、全体を通じて、医療安全推進には現場に足を運び、視覚化した対策を提示することの重要性を提案した。

## 2011年1月の診療数

### 近森会グループ

外来患者数	17,088人
新入院患者数	803人
退院患者数	741人

### 近森病院

平均在院日数	16.21日
地域医療支援病院紹介率	89.63%
救急車搬入件数	417件
うち入院件数	233件
手術件数	396件
うち手術室実施	252件
→うち全身麻酔件数	162件

企画情報室



今回は身近なハイリスク薬をテーマとして取り上げた。看護師、薬剤師を中心に院内・外から109名の参加をいただいた。

筒井薬剤部長は日本医療機能評価機構に収集された事例を中心に、当院薬剤部の取り組みを紹介し、当院採用の1400種類の内、危険薬300のなかで絶対知っておくべき薬剤と、してはい

## ◆院内引越しスケジュール◆

- 3月15日から・現管理棟東側の、会計事務所を解体
- 4月中旬・管理棟完成→引越し後、北館と管理棟跡地に北館病棟の建設予定  
(現管理棟の全機能が移動しますが、研修医室は管理棟別館2階の現栄養サポートセンターと職員ロッカー跡地へ移動します)
- ・シーメック地下事務所が新しい管理棟へ移動します
- ・ME室、CE室、CS室が本館地下へ移動します

よき友くすし

11

## 花粉の季節を乗り切ろう！

上は点眼、下が点鼻



今年はスギ花粉の大量飛散が予想され、花粉症の人にとってはつらい季節になりそうです。対策は万全ですか？そこで今回は花粉症の代表的な薬について紹介したいと思います。

・抗アレルギー薬……花粉が飛ぶ前

近森病院薬剤部  
河井 望

から飛ばなくなるまで使用することで症状を軽減することが出来ます。一時的に治まっても、続けて使用するようにしましょう。内服の場合、服用後に眠気が起こることがありますので、車の運転などには注意してください。

・ステロイド薬……症状がひどいときに用います。即効性がありよく効きます。副作用を心配される方もいると思いますが、局所的(点眼、点鼻)に短期間の使用であればほとんど問題はありません。ただし、点眼薬を用いる場合、緑内障や白内障の方は症状が悪化する可能性があるため医師に相談しましょう。

他にも様々な種類の薬がありますが、手当たり次第に薬を使用することは危険です。医師の指示に従って使用するようにしましょう。



# アメリカでの国際集中治療学会への参加

SOCIETY OF CRITICAL CARE MEDICINE 40TH  
CRITICAL CARE CONGRESS SAN DIEGO,  
CALIFORNIA, USA

演題「An application of enteral nutrition protocol  
improves patients cares and outcomes in post-  
esophagectomy patients」

近森病院麻酔科 濱田 暁

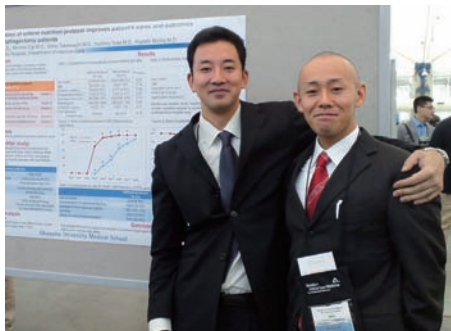


いるうちに、あっという間に無事(?)、  
終わっていました。

発表を終えたあとは、岡山大学から  
参加された先輩方やレジデント達とサ  
ンディエゴの海の幸を食べたり、サー  
フィンで有名なビーチに遊びに行っ  
たりと、アメリカ西海岸を満喫してき  
ました。

準備はたいへんでしたが、大学病院  
での臨床研究の一端に触れることで普  
段の臨床とはまた違った経験ができ、  
自らの麻酔科医としての幅を広げること  
ができたのではないかと感じていま  
す。

最後に、今回、平日にお休みをもら  
って国際学会へ参加することを許して  
いただいた麻酔科、手術室スタッフの  
皆様にお礼を申し上げます。



るで豪華客船のような立派な建物で、  
学会の規模の大きさを改めて体感しま  
した。

発表はわずか 10 分程度のポスター  
発表で、怖い顔のコーディネーター(ど  
こかの大学の教授の先生だったと思  
います)が繰り出す早口の英語の質問に  
中学生レベルの英語で必死に応戦して



2011年1月15～19日の日程で行  
われた、アメリカ、サンディエゴで開  
催された米国集中治療学会に参加して  
きました。

学会に参加するきっかけは、昨年度  
在籍していた岡山大学病院麻酔科で、  
先輩医師から海外発表を勧められたこ  
とでした。岡山大学病院では若手医師  
の国際学会への参加を奨励しており、  
レジデントを国際学会に見学に連れて  
行ったり、経験の浅い医師の海外発表  
を先輩医師が手伝ってくれたりとい  
ったシステムが充実しています。私自身  
も国際学会での発表は初めての経験で  
あり、先輩医師に手伝ってもらいな  
がら、研究のデータ集めから、初めての  
英語での学会ポスター作り、原稿作り  
などの準備をおよそ半年がかりで行  
いました。

雪がちらつく厳寒の中、成田空港を  
出発し、ロサンゼルス経由で南カリフ  
ォルニアのサンディエゴに降り立つ  
と、そこは冬とは思えない暖かい陽気  
でした。学会会場は、海に面した、ま

## 院内旅行—南イタリア、ニセコ、ディズニーランド

左の2枚はニセコ、右端上がディズニーランド。他の2枚は南イタリア。  
厳しい寒さのなか、みんな旅行を満喫している顔、顔、顔



## 献血にご協力いただきありがとうございました。



2月9日には70人、10日は71人、合計  
141名のご協力がありました！★近森病院は日  
本赤十字社の献血サポーターに登録しています



## 県外出張件数

	件数	人数
1月	46	81
2月	60	119
3月	62	113
4月	48	72
5月	69	153
6月	76	142
7月	87	159
8月	47	96
9月	72	126
10月	67	139
11月	81	145
12月	43	112
合計	758	1,457

(平成22年分)



# 「ICT ウィークリーニュース」 発刊 200号にあたって

近森会グループ感染対策委員長  
近森病院副院長  
北村 龍彦



インフルエンザが蔓延していますが、手洗い、うがい、咳エチケットは励行できていますか？

感染予防は、標準予防策（スタンダード・プリコーション）が最も基本で、かつ重要です。

さて、感染対策委員会では感染対策の一環として、耐性菌の統計や抗菌薬の感受性・使用状況、各種感染症の発生動向、感染対策チームの部署ラウンド結果と改善策などを、臨床現場にタイムリーに情報提供しています。

きっかけとなったのは2006年（平成18年）の診療報酬改定で、院内感染防止対策が入院基本料の算定要件となり、「感染情報レポート」が週1回程度作成・活用される体制整備が求め

られたことです。

この目的のために、ICT ウィークリーニュース（ICT：インфекション・コントロール・チーム：感染対策チーム）が発刊されて、2011年2月2日で第200号となりました。2006年12月28日の創刊号以来、ICTスタッフが毎週1回情報を持ち寄り、内容を検討後、イントラネットを利用して全部署に配信し、臨床現場で活用してもらっています。毎週継続して情報を提供し続けることは大変ですが、ウィークリーニュースが皆さんの感染予防の一助となるように使命感を感じて続けています。

感染制御は困難を伴いますが、スタッフ全員が感染予防に配慮した基本に忠実な手技を実施し、医療関連感染のない安心・安全で良質な医療提供を続けましょう。

## 管理部長の こだわりヘルシー美食 20

近森会グループ管理部長 川添 昇

産地偽装でいちばん嬉しいのはシャンパンだろう。日本酒では地方の酒を桶で集めて「灘の生一本」などとして平気で売られている。



シャンパンという名はフランスのシャンパーニュ地方のぶどうで現地で作られたものしか名乗れない。その他の地方でつくられたものは「ヴァン・ムスー（泡のワイン）」。なんとそっけなく言われなくてはならないのか。イタリアの「スプマンテ」はまだいいとして、スペインの「カバ」に至ってはなんともはやである。

私が日頃愛飲しているのはシャンパン以外の総称スパークリングワインである。1,000円台で上等。今回も料理ともいえないが、

### 「スパークリングワインの サングリア風」

画・臨床栄養部部長  
吉田 妃佐



〈作り方〉

広口のグラスによく冷えたスパークリングワインを入れ、苺、キウイ、グレープフルーツ、オレンジ、桃、リンゴ等々を投入するだけ。（果物を先に入れると泡が出すぎる）

〈飲食する〉

- ・暖くなった屋外でまず乾杯、スパークリングワインをグビッと飲み
- ・果物を食しながらスパークリングを飲む。酸っぱい。甘い。美味しい。
- ・楽しい会話を挟みながらこれを繰り返す。

食前でもよし、食後でもよし。難は、つつい飲み過ぎてしまうことだろうか。発泡性のアルコールは胃壁からの吸収が良すぎるから。

シャンパンは、ハレの日に大事に飲んであげるのが礼儀といえるかもしれない。

## リレーエッセイ

### 長らくお世話になりました

電話交換室 今久保 美紀

病院の片すみで裏方の仕事をさせていただいているのですから、定年を迎えるからといって、こうして晴れがましい欄に出るのはホントに恥ずかしいのです。でも、勤めて三十数年も経つのですから、よう頑張ったと自分で自分を誉めてあげたいという気持ちも、正直なところではあります。

「近森に電話したら何とかなる」ということで、とりあえず電話をかけてこられる方もおられます。けっこう長話で、結論になかなか行き着かない方を、訳も分からずどこかの部署へお繋ぎするというのもできず冷や汗を流すこと、電話交換室ではお答えの判断が難しいことなど、書き出したらキリがないほど、色々修業をさせていただきました。勉強になりました！

理事長は「チーム医療の大切さ」をよくいわれますが、私たち電話交



傍にはいつも完璧に整理された鉛筆書きの番号帳。印刷物に入りきらない番号がぎっしり

換室のメンバーも常にチームワークを意識し、何とか切り抜けてくることができたと実感しています。また、メンバーが仲良しで、目と目で理解しあうとか、ある種の空気を読み合うとか、そんななかで助けをもらいながら、ここまで続けられたと感謝しています。

野菜作りが趣味ですから、これからは畑の野菜の種類も増やして、自慢の料理の腕をもっと上げたいと思っています（笑）。皆さん、どうかご機嫌よう！

# 感謝の気持ちを マネジメントの 活力へ

## マネジメントの基本は信頼を得る努力

175センチ、90キロ。この堂々たる体格は、どんなにきつい手術スケジュールにもヘコたれない安定感を周りに与えるように見えるが、その安定感の源がじつは細やかに周りを包むマネジメント力にあることは、楠目部長とちょっと接したらすぐ分かる。

相手のペースを優先しつつ、できるだけ断わる手術を出さないために厳しい日程調整をお願いすることもあり、引くばかり押し付けるばかりではない微妙な駆け引きが求められる。これだけ多くの手術が行なわれているのに、「時間外はけっこう少ない」そうだから、このマネジメント効果が楠目部長には密かな自慢なのかも知れない。手術室の東野栄三師長とは絶妙の呼吸で調整し、その統括を担当することで、全体がうまく流れるという自負は仕事のやり甲斐につながっているし、それがマネジメントの醍醐味にもなる。



## 元気の源

近森リハビリテーション病院  
医療相談室ソーシャルワーカー  
吉松 遥



これは、わたしが大切にしている、友人からの手紙です。

社会人1年目！そして、ソーシャルワーカー1年目です！奮闘中の毎日ですが、そんな時、いつも友人からの手紙に元気をもらっています。

就職して、会う機会は減ってしまいましたが、近況を知らせてくれる手紙に「私も頑張ろう」と思えます。元気をくれる存在がいることを幸せに思っている今日この頃です。

これからも、「元気の源」にパワーをもらいながら、日々奮闘していきたいです。ご指導、宜しくお願いします。

「日頃から信頼を得て

いないと、無理はお願いできない」と、楠目部長は周りのスタッフの理解と協力に感謝し、同時にその気持ちが明日のマネジメント業務の活力にも繋がるのだ。

## 「なめたらいかんぜよ！」の軌道修正

「この35年間、身長は変わらないので、横にしか成長していないことになる(笑)」そうだが、手の混んだ家庭料理を毎日食べている証でもある。趣味といえるほどの趣味はなく、ただ家でボーッとするのが何よりの疲れの解消になる。それでも、亭主関白を貫きたい古いタイプの人間だから、妻に日頃の感謝や「アイシテル」などは「口が裂けてもいえない」。おまけに、人間関係で大事にしたいのは義理や人情や正義感だから、少し窮屈そうに周りには映るかも知れないが、それがまた楠目部長の魅力になっているのだろう。

若いスタッフからフレンドリーに接してもらえ、日頃の対応は腰を低く優しく丁寧という姿勢が功を奏していると思う。が、「なめたらいかんぜよ！」と感じる対応に出くわすと、姿勢の軌道修正が求められるのでは？と気になることもあるという。人間関係を心を配る細やかさもののぞかせる。

## 物事を大きく捉える視野を求めて米国に

土佐高校から地元の高知医科大学に進み、医大附属病院や安芸病院で麻酔科医としての経験を積んだあと、研究の道に進む決心をして岡山大学で医学博士の学位を取った。大きな施設で学んで臨



▲「横にしか成長していない」前の、スリムな学生時代の楠目青年

▲手術日程の白板前で東野師長(左)と日程調整を行っている楠目部長。手術前室で見られるいつもの風景

▶手術中、安定状態にある手術を見守る部長



床力を付けたかったからだが、そのあと、米国のカンサス大学に2年間の予定で進んだのは「もっと大きな視野で物事を捉えられるように自分を鍛えたかったから」である。それらの大きな決心のきっかけになったのが昭和大学横浜市北部病院教授の小坂誠先生で、感謝と尊敬の念を忘れず、いまもって週にいちど近森病院に手術麻酔のためにお越しいただき、ずっと関係を保っている。これも、人を大事にし義理と人情に生きる、いかにも楠目部長らしい人間関係の距離の取り方が窺える。

米国留学から帰ったときもやはり小坂先生の骨折りで近森会に就職し、すでに8年が過ぎた。就職と同時に麻酔科の部長として「自分にはたいへん過大なポストをいただきました」と恐縮されるが、その恩を忘れたくないと繰り返すのも、義理人情に厚い楠目部長の人柄がよく表われている。

## いまから楽しみな将来の夢

仕事は手術麻酔に追われているから緊張がつきものだが、だからこそオンとオフのメリハリを心がけ、若い医師をたくさん育てて信頼できる医師で麻酔科をがっちり固めるのが当面の目標である。「子どもたちもおいおい片付くので、(感謝の言葉をかけたことのない)妻と国内外をゆっくり旅行して回りたい」、これが想像するだけでもいまから楽しみな将来の夢である。



手術棟の奥の麻酔科医局で。手術室に入らないとき、デスクワークの傍ら、手術室モニターを見ながら電話を受け、やはりマネジメント業務を行なっている楠目部長



## ニューフェイス

①所属②出身地  
③最終出身校  
④家族や趣味のこと、自己アピールなど



今井龍一郎

いまい りゅういちろう①  
循環器内科医師②東京都③  
東京医科大学④約3年ぶり  
に戻って来ました。以前と  
違うなと思われるよう、日々  
精進致します。

## 編集室通信

JUDGEMENT、判断、決断一世の中どうも遅くなっている。某政党の決断の緩さ。先延ばして機会の損失を起こし、結局前より悪い状況に陥ってしまっている。それを何回も繰り返している。大相撲の八百長問題にしたって、去年の賭博問題の時にわかっていたものを今頃になって持出し、余計に騒動の輪を広げている。しかも五十歩百歩以前の政治家が正義倫理をふりかざし、したり顔で発言する。お前に言われる筋合いはない。「何という為体(ていたらく)か!」と慨嘆するのは寄る年波のせいだろうか。(かえる)

診療数は4面、出張件数は5面に

## 図書室便り (2010年1月受入分)

- ・JATEC 外傷初期診療ガイドライン改訂第3版 DVD-ROM 付/日本外傷学会・日本救急医学会 (監修)
- ・ハイリスク薬チェックシート本当に必要なモニタリング・患者ケアを見逃さない/荒木博陽 (監修)
- ・泌尿器科・病理・放射線科前立腺取扱い規約第4版 2010年12月/日本泌尿器科学会 (他編集)
- ・TNM 悪性腫瘍の分類第7版日本語版/UICC 日本委員会 TNM 委員会 (訳)
- ・薬効別薬価基準保険薬事典平成22年6月版/薬業研究所 (編集)
- ・聞く技術答えは患者の中にある上/ローレンス・ティアニー (他編集)

### 《寄贈本》

- ・日本整形外科学会静脈血栓塞栓症予防ガイドライン/日本整形外科学会肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症(静脈血栓塞栓症)予防ガイドライン改訂委員会 (編集)
- ・MRSA 感染症と薬物治療のコツ改訂版/島田馨 (他著)
- ・OSNOW 新時代の整形外科治療 No.2 肩関節疾患の治療/松崎昭夫 (担当編集)
- ・OS NOW 新時代の整形外科治療 No.7 脊柱・骨盤の手術合併症と対策/金田清志 (担当編集)
- ・OS NOW 新時代の整形外科治療 No.17 肘関節疾患の手術療法/松崎昭夫 (担当編集)
- ・OS NOW 新時代の整形外科治療 No.28 手の外科—先端的情况/林浩一郎 (担当編集)
- ・β遮断薬のすべて第3版/荻原俊男 (他編集)
- ・心不全 Up-To-Date 慢性心不全治療とβ遮断薬スライド集 CD-ROM 付/「心不全 Up-To-Date」スライド集編集委員 (編集)
- ・医療現場を変える接遇力事例で学ぶプロの患者コミュニケーション術/佐藤美智子 (他編集)

### 《別冊・増刊号》

- ・別冊医学のあゆみここまでわかったミトコンドリア研究の新展開/太田成男 (編集)
- ・腎と透析 Vol.69 増刊号 AKI と CKD のすべて/『腎と透析』編集委員会 (編集)
- ・月刊 Medical Technology 別冊 超音波エキスパー 10 血管エコーレポート集/松尾汎 (監修)
- ・EMERGENCY CARE 2011 年新春増刊めざせエキスパート ER 初期対応実践 BOOK 基本の処置・観察ポイントと救急看護計画/寺師榮 (編著)
- ・BRAIN NURSING 2011 年春季増刊今さら聞けない脳神経外科看護の疑問 Q & A/石山光枝 (監修)

### 《視聴覚資料》

- ・Audio-Visual Journal of JUA Vol.17 No1/日本泌尿器科学会 (企画・監修)